

表紙

はじめに

森は海の恋人という名言があります。ひろしまの山は、里、まち、そして風光明媚な瀬戸内海や魚介類が豊富な日本海ともつながっています。山と海、人とひと、人と里山、里とまち、企業と地域・・・いろいろな担い手を結んで、ひろしま県内10市町11の会場で、第11回ひろしま「山の日」県民の集いを開催しました。早朝の雨で少し出足は鈍りましたが、それでも山の手入れへの参加者は例年とほぼ同じ約1,000人となりました。今回の集いのキーワードは「つながり」。県内の11の会場では、これを意識したいくつかのプログラムが行われました。

●第12回ひろしま「山の日」県民の集い「山の日」宣言

広島県の面積のおよそ7割は山です。全国に誇る里山を有しています。山から湧き出る水は命の源であり、その水が里の稲や野菜を育てています。

山を被う緑の木や草は、新鮮な空気をつくりだしています。

広島豊かな山で生まれた水は豊かな川となり瀬戸内海や日本海へ注ぎ、魚や貝を育てています。

私たちは、6月の第一日曜日を「山の日」とし

ひろしま「山の日」県民の集いを、県内各地で開催し

山の大切さを訴えています。

ひろしまの里山から、山の大切さを理解し行動する人の輪を拡げ、山がよくなる運動にしていくことを宣言します。

2012年6月3日

ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会

実行委員長 伊藤利彦

目次

1	事業のアウトライン	2
2	山の日ネットワーク尾道会議の記録	3
3	各会場の記録	
	① 尾道市会場:尾道ふれあいの里	8
	② 東広島市会場:憩いの森公園	13
	③ 廿日市市会場:もみのき森林公園	18
	④ 広島市会場:広島市森林公園	20
	⑤ 広島市会場:広島県緑化センター	23
	⑥ 三原市会場:中央森林公園	26
	⑦ 庄原市会場:板橋さとやま学びの森	30
	⑧ 福山市会場:ふくやまふれ愛ランド	31
	⑨ 三次市会場:酒屋地区憩いの森	33
	⑩ 呉市会場:グリーンヒル郷原	34
	⑪ 北広島町八幡高原会場:八幡高原	36
4	実行委員、協力団体等	39
5	トピックス	40

事業のアウトライン

1 目的	森林ボランティアや民間が中心となり展開してきた、ひろしま「山の日」県民の集いも 11 回目となる。10 年後、広島県内 23 市町で展開できるように広島県など行政も加わった県民参加の森づくり運動として展開する。多くの県民が、身近な山へ入るきっかけをつくることを狙いにする。
2 日時	2012 年 6 月 2 日(土) 山の日ネットワーク尾道会議 2012 年 6 月 3 日(日) 集いの行事(広島県内 10 市町 11 会場)
3 場所	尾道市会場(尾道ふれあいの里) 東広島市会場(憩いの森公園)、廿日市市会場(もみのき森林公園) 広島市会場(広島市森林公園、広島県緑化センター) 三原市会場(中央森林公園)、庄原市会場(板橋さとやま学びの森) 福山市会場(ふくやまふれ愛ランド)、三次市会場(酒屋地区憩いの森) 呉市会場(グリーンヒル郷原)、北広島町八幡高原会場(八幡高原)
4 総参加者	約7,000人(山の手入れ等参加者約1,000人)
5 主催	ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会、中国新聞社、中国放送
6 特別協力	ひろしまの森林づくりフォーラム
7 後援	林野庁、広島県、広島県教育委員会、広島市、呉市、福山市、三原市、尾道市、三次市、庄原市、東広島市、廿日市市、北広島町、(公社)国土緑化推進機構、(公社)広島県みどり推進機構、(社)広島県森林協会、広島県森林組合連合会、ひろしま緑づくりインフォメーションセンター、(一社)広島県山岳連盟、(公社)日本山岳会広島支部、「山の日」制定協議会、NHK広島放送局、広島テレビ放送、広島ホームテレビ、テレビ新広島
8 協賛	西条・山と水の環境機構、(株)ウッドワン、(株)エディオン、神沢精工(株)、山陽乳業(株)、JAグループ広島、(株)タカキベーカリー、中国電力(株)、中国木材(株)、(株)中電工、広島県協同組合連絡協議会、広島信用金庫、広島県信用組合、(株)にしき堂、マツダ(株)、(社)広島県造園建設業協会、広島県樹苗農業協同組合、(株)広島銀行、光和物産(株)、山陽工業(株)、しまなみ信用金庫、庄原商工会議所、誠心園、田中電機工業(株)、東京農業大学校友会広島県支部、西日本旅客鉄道(株)広島支社三原地域鉄道部、(株)パブリックス、東広島商工会議所、日の丸産業(株)、ひろしまNPOセンター、広島商工会議所、広島ガス(株)、広島市漁業協同組合、(株)広島バスセンター、広電建設(株)、福山商工会議所、(株)不二ビルサービス、みずえ緑地(株)、(株)有斐園、ゆあーず「食」未来研究所、森信建設(株)、(株)ユアーズ
9 助成	ひろしまの森づくり県民税 助成事業 「緑の募金」助成事業 セブンーイレブンみどりの基金 助成事業

山の日ネットワーク尾道会議

栃木、東京、大阪、高知、愛媛など県外からも山に日に想いをよせる方々に参加していただき「山の日ネットワーク尾道会議」を開きました。各地域や団体での取り組みを紹介していただき、「山の日」制定に向けての意見交換・議論を行いました。各地でそれぞれビジョンを持った活動がなされ、「井の中の蛙になってはいけないこと」そして「想いを持つ仲間との情報交換・連携の大切さ」を痛感しました。

今回の尾道会議を受けてこの秋(10月3日)に、東京で『「山の日」ネットワーク東京会議』が行われました。広島・尾道から「山の日」の輪が、県内外に広がっています。

●話題提供者

市川貴大氏(とちぎ農林倶楽部 部長)

成川隆顕氏(「山の日」制定協議会 代表幹事、日本山岳会)

萩原浩司氏(日本山岳会「山の日」プロジェクトリーダー)

塩野雅典氏(おおさか「山の日」事務局 大阪府みどり推進室)

鶴見武道氏(四国のもりづくりネットワーク代表)

橋口勝一氏(林野庁四国森林管理局 指導普及課課長補佐)

伊藤利彦氏(ひろしま「山の日」県民の集い実行委員長)

●コーディネーター

中越信和氏(広島大学大学院国際協力研究科教授・森林生態学)



▲市川貴大氏



▲成川隆顕氏



▲萩原浩司氏



▲塩野雅典氏



▲鶴見武道氏



▲橋口勝一氏



▲伊藤利彦氏



▲中越信和氏

中越:日本の「山の日」が現在どういう状況になっているか、それぞれの立場から情報交換をしたいと思います。まず栃木県の市川さんからお願いします。

現在、25の府県で「山の日」「森の日」を制定し、行事を行っている。

市川:栃木県内で「山の日」に関するアンケートをしましたのでそれを報告したいと思います。

「山の日で連想すること」を聞くと、森づくり、国土保全、登山、水源涵養、次世代への継承、景観、温暖化防止、農林業、観光という順の答えが返ってきました。「山の日」の

制定へ向けた運動を知っているかどうか」を聞くと70%が知らない、30%が知っているという状況でした。そしてこの制定には57%の人が賛同すると答えていました。

1年前に各都道府県や関係団体に問いかけた結果も報告します。「山の日の名称を織り込んだ運動をしている」のが広島県など13ヵ所、「森の日の運動をしている」が九州各県など12ヵ所、「山や森の期間を示す運動をしている」が10ヵ所でした。「実施の時期」を聞くと11月が4割、10月が3割と目立っていました。四国四県は11月11日に、九州は11月第2日曜日に決められていました。

「制定した年」を聞くと広島県は2002年からですが2008年からが3割と一番多いですね。2005年に「木づかい推進月間」が定められた影響によるものと思われます。「運動の趣旨は何か」を聞くと10割が森づくり、6割が水源涵養、4割が地域活性化、3割が次世代への継承となっていました。

「全国的な山の日制定に向けてのありかた」を聞くと「国へ意見書を提出している」を海なし県の長野県と奈良県がおこなっており、「国への要望」を毎年林野庁へ要望している「森林の公益的機能拡充推進協議会(栃木県など7県)」や「山の日制定と祝日化を要望する関東地方知事会(東京都など10都県)」がおこなっています。「国へ提出する予定」をひろしま「山の日」県民の集い実行委員会が考えておられます。「県議会で検討する」を神奈川県など3県があげています。

「山の日に期待すること」は、多くの国民が森林・山村づくりへの重要性に理解を深めること、善意の環境保全

活動がより活発・持続的におこなわれること、都道府県の連携や情報提供がなされること、国の関係機関の積極的な関わりが生まれることなどがあげられました。

山に関心を持ってもらおう、と山岳5団体で「山の日」制定協議会をつくり活動している。

成川：ここに「山の日」制定協議会が作った「山を考える」のリーフレットを2種類持ってきました。これで4種類の発行となりました。いずれも各10万部を印刷し、配付しています。山への関心を高めるためクイズ(Q&A)を大きく載せていますが、読んでほしいのは裏ページの「山の日をつくろう」のアピールです。全国的な運動に育てたい想いに協力願えればありがたいと思います。

広島など13県の運動に「山の日」の名称がつけられおり、他にも「森」や「山や森」が多くつけられていますが、実態はバラバラな動きをしてきた10年間だったのではないのでしょうか。

このたび「山の日ネットワーク尾道会議」が開かれ、この延長上に全国的なネットワーク会議が設けられればいいなと思います。「国民の祝日に」という旗印を掲げつつ、その過程で、もっと中身を一緒に検討することが必要だと思います。

本日、初めて訪れた尾道での景色はまさに「日本は山の国だ」という美しさの実感でした。

2年前から「山の日」制定協議会で「山に関心を持ってもらおう」と積極的に検討を始めておりますが、この運動を広げるために広島県のような展開を図ってほしいと思



いました。さらに詳しくは一緒に参りました萩原から説明させていただきます。

萩原：日本山岳会の理事を3年前から担当しています。成川は日本山岳会の前常務理事であり2010年4月から山岳5団体の「山の日」制定協議会代表幹事です。私は日本山岳会の「山の日」プロジェクトリーダーを最近、成川から引継ぎました。

日本山岳会の会員は5000人、山岳関係5団体ですと10万人になりますが、さらに登山団体の枠を超えた関係団体と連携を図り、具体的な運動として10月3日に「山の日」ネットワーク全国会議(仮称)を東京で開く予定であります。

実は2010年11月、行政へ働きかける一環として国会議員に直接PRしようと決め、2011年4月から行動に移す手筈を整えていました。ところが3月11日の大震災の勃発でこの計画が頓挫してしまいました。そこで取り敢えず継続してやれることとして、より幅広く国民にリーフレットを配布し、趣旨を理解してもらうことに切り換えました。また、国民の祝日にこだわることなく、まずは6月第一日曜日を全国いっせいの「山の日」にすることを中心に据えることにしました。



「おおさか山の日」の行事には、7年間で延べ40万人が参加。

塩野：大阪府は都心から山までの距離が約20kmで、東京都の約45kmよりも近くて、山が身近な存在となっています。それでは、おおさか「山の日」の取組みについて報告します。

発端は平成17年に府民ぐるみで森林を守り育てようと11月第2土曜日をおおさか「山の日」に制定したことに始まります。この年11月3日のオープニングイベントには広島伊藤実行委員長にもお越しいただきました。11月12日、二上山万葉の森の式典に500人が集まり、「山



の日」宣言、シンボルマーク発表、記念植樹をおこないました。推進月間でおこなったハイキング、間伐体験、クラブ・リース作り、自然観察会などには1500人が集まりました。毎年90前後のイベントをおこなっていますが7年間で延べ40万人が参加しています。

「アドプトフォレスト制度」を設けて、企業・NPO、森林所有者、大阪府、地元市町村間で協定締結をし森づくり活動を展開しています。この5月で35企業が参画しています。企業側メリットは府のホームページ、自社の環境報告書などによるPR、森林による二酸化炭素吸収量の評価などがあります。代表的な企業ではシャープ、住友ゴム工業、明治製菓、高島屋、大阪芸術大学、地元中学校、ライオンズクラブなどが活動されています。

ユニークなところでは「生駒山系花屏風事業」があります。生駒山系に1万本の四季の彩りを提唱するもので、府民が集まる場所を「花広場」と称し花木の名所にする。街から見える場所を「花屏風」と称し花木で彩る。街道沿いを「花回廊」と称し花木で飾るというものです。今後は北摂山系も対象にして炭生産のためにクヌギ林の造成を図りたいと考えております。



四国は一つ。11月11日を「四国山の日」として、森林整備の大切さを普及。

鶴見：このたび、えひめ森林ボランティア連絡協議会の

森林づくり活動が 10 周年を迎えましたので記念誌を作成しました。冒頭に森林ボランティア活動の推進をあげておりますが、今日までに 21 団体 3006 人の森林ボランティアを育成することができました。平成 13 年を「森林そ生元年」と位置づけ、この年 10 月 21 日に県主導で協議会を結成しました。そして県民参加の森林づくりを進めるために平成 16 年 11 月 11 日に 11 月 11 日を「えひめ山の日」と制定しました。主な活動として、森林ボランティアリーダーの養成、同アドバイザーによる活動支援、「ボランティアの森」整備、ボランティア活動器具などの配備、えひめ森の案内人養成研修、「森林とふれあう高校生の集い」などの実施をしております。

平成 17 年度には森林環境税が導入されました。森林環境税を活用する公募事業には数多くの方の参加があり 7 年間で 408 件の活動を実施しました。活動内容は、放置森林の整備や植樹活動、竹林の整備などの里山整備活動などの「森をつくる」活動、木材利用について理解と関心を深め、木材の良さを体感する木工などの「木を使う」活動、自然観察や森林環境教室などの「森と暮らす」活動の 3 区分でおこなっております。

「四国山の日」については橋口さんから説明をさせていただきます。

橋口:平成 16 年 11 月 14 日、四国四県と四国森林管理局による「四国の森づくりに関する共同宣言」において 11 月 11 日を「四国山の日」と制定しました。四国山の日イベントは、「四国はひとつ」のスローガンのもと、四国の各県民に森林整備の重要性の普及啓発を図るもので、各県が輪番で開催しております。

「四国山の日えひめ 2010」の場合を例にとりますと、10 月の 2 日間、上浮穴郡久万高原町で開催し、初日は表彰式、小学生から大学生にいたる学生、企業、森林ボランティアなどの活動発表、指導林家による講演などをおこないました。翌日の分科会では「森づくり安全技術技能研修」「久万林業まつり見学」などを実施し、四国四県から 330 人を迎えました。

こうした事業を今後とも継続することで、四国四県の皆さんが森林に親しみ、森林づくりに参加し、森林を整備・保全する機運が継続的計画的に定着することを願っております。

ひろしま「山の日」の特長は、「民」が主体で企画運営していること。

伊藤:広島県の場合は、2002 年に開かれた「第 7 回森林と市民を結ぶ全国の集い」で一人のパネリストが「山の日をつくろう」と提案され、議論を経て「山の日をつくろう」との大会メッセージに実ったのがきっかけでした。

山の大切さをできるだけ多くの人たちに知っていただきたい。そのきっかけづくりとしてこれまで 10 回開催してきました。第 1 回～4 回までは県内 1 か所の会場でしたが、第 5 回以降はメイン会場とサテライト会場方式として県内数か所で同時の開催をおこない、あわせて 1 万人が参加する行事となっています。今年も第 11 回目ですが、ここ尾道市会場をメイン会場に、県内 10 市町 11 会場で明日一斉に開催します。

ひろしま「山の日」の特徴は、「民」が主体だと言えるでしょう。森林・環境ボランティア、山岳関連団体、大学、メディア、地域、企業、行政などが参画しています。多様な主体による自主企画による事業運営であることも特徴です。ネットワーク型事業で広島県内 10 市町 11 会場に約 130 団体が参加して運営に当たります。

これからの課題は、県行政との連携、他府県との連携、安定的な資金調達と事業運営体制づくりがあげられます。10 年先には現在の 10 市町 11 会場を 23 の全市町に展開すること。現在の参加者数 8,600 人(県民の 0.3%)を 2 万 8000 人(同 1%)にすること。森づくり全国協議会の認定指導者を現在の 14 人から 100 人にすることがあげられます。



「山の日」をしっかりと定着させるために。

中越:先ほど「山の日」を国民の祝日という発言がありました。どうやって PR すると盛り上がると思われませんか。ある調査では 1% の人が本気で行動を起こすことが必要だと出ていました。納税者が 1 億人なら 100 万人が「山の日をつくるぞ」と言ってくれないと動かないことになりません。

成川：そのためにはメディアの役割が大きいですね。3年前、この構想を発表した時は共同通信社が流してくれて十数社の新聞社が報道してくれました。NHK も取り上げてくれました。現代ではインターネットも強力なメディアですね。

大きな流れをつくるうえでも10月3日の《みんなで山を考えよう/「山の日」ネットワーク全国会議》※を成功させたいと思います。さらにステップアップするために2013年秋にも《「山の日」をつくろう全国大会》を催したいと思っております。



中越：秋にゴールデンウィークをという声もあるようですが「山の日」を新たな祝日という国民的コンセンサスを得ることはなかなか難しいところです。「山と海の日」とか「山と川と海の日」にする動き方もあると思います。あまり「山の日」を祝日にしようと言うよりも、どれほど私たちにとって山が大切かを説得することの方が大事ではないかと思えます。私たちが主体となって頑張り、周囲と同盟関係を拓けていき、全国的ネットワークのもとで「山の日」をどう位置づけるかを協議することだと思います。

記録者：国枝忠幹（公益社団法人日本山岳会広島支部）

※「山の日」ネットワーク東京会議として開催されました。会議の記録は、公益社団法人日本山岳会広島支部の国枝忠幹さんにまとめていただきました。

JAC Hiroshima 支部報第45号(2012年10月1日発行)に掲載された内容です。



尾道市会場 尾道ふれあいの里

全体

■参加人数：420人

＜プログラム状況＞

約400人が参加、湯崎知事にも出席いただき

オープニングセレモニーが行われました。

尾道ふれあいの里のゲートボール場がセレモニーの会場になりました。地元の御調町をはじめ尾道市内、広島県内、さらには「山の日ネットワーク尾道会議」で話題提供された栃木県、東京都、大阪府、高知県、愛媛県からの参加者も含め、約400人が出席。空谷正樹尾道市会場実行委員長の開会宣言に始まり、伊藤利彦実行委員長の開会のあいさつがありました。そして、湯崎英彦広島県知事は「海と山はつながっている。豊かな森があつてこそ、豊かな海になる。広島県内11の会場で、行事が行われていることに感謝したい。山の日を定着を願う」と話されました。また、平谷尾道市長も「尾道は海と山がつながっているまちであり、この行事をきっかけに島の山づくりなどにも取り組みたい」と歓迎の挨拶。自然が大好きという安田春香さん(御調西小学校)と光永健太くん(木ノ庄東小学校)が、元気にひろしま「山の日」宣言をし、各プログラムに入りました。



▲山の日宣言をする地元の小学生

尾道らしさを感じさせるプログラムが、参加者の五感に届きました。

山と海つながりをテーマにした開会行事でのメッセージ、写真展示、海と里のつながりを素材にしたランチタイム、円鑄勝三彫刻美術館を組み込んだ里山ハイキングコース、宮大工による木を語る教室など……。尾道らしさを感じさせるプログラムが参加者の五感に心地よく届いた「山の日」になりました。



▲海と山のつながりをモチーフにした写真展示



▲開会宣言をする空谷尾道市会場実行委員長



伊藤利彦実行委員長の会開挨拶▲

▼湯崎英彦広島県知事、祝辞



子どもたちの参加が目立ちました。希望を感じさせる「山の日」になりました。

尾道市会場は、山と海のつながりをテーマに、どのプログラムもともしっかり企画されているとの印象を持ちました。愛媛から参加された鶴見武道さん(えひめ山の日・四国山の日代表世話人)は、閉会式するとき「子どもたちの参加が目立った。希望を感じさせる集いになった」と印象を語られました。



▲森のネイチャーゲーム



▲子供たちがつく工作を紹介する小川尾道会場副実行委員長

山の手入れ

■参加人数 : 65人

<プログラム状況>

開会式終了後、「山の手入れ」参加者は、開会式会場後方に集合し、点呼後、昼食広場へ移動し、作業内容を説明しました。作業内容は、尾三地方森林組合の作業員が前日までに除伐した灌木を参加者が棚積みをする作業です。そして、7班に分かれて山林内に入り、作業を開始しました。小学生から70歳代の方まで熱心に作業されていました。少し蒸し暑い天候ではありましたが、木陰の下での作業でしたので、参加者の皆さんが、安全にけがもなく終了できました。見た目もスッキリした里山になりました。



▲作業に仕方を話す尾三地方森林組合のメンバー



▲山の手入れ作業の様子

里山ハイキング

■参加人数: 180人

<プログラム状況>

午前中の定員50人のところ、180人の参加者、こりゃあ困った。開会前の感想です。2班を3班に編制し直し、スタート。

ふれあいの里の「緑陰コース」と「円鋸勝三彫刻美術館」往復の3.3kmをゆったりと散策です。途中、植物の専門家から植物についての学習、特に山菜についての説明は、質問もあり興味を示されました。「この場で食べることができたら」との声もありました。また円鋸勝三彫刻美術館は、巨匠の彫刻が、文化の香りをくれました。

今回は、里山の植物について学習しましたが、山に暮らす動物や山と健康など、山を知るための学習を更に深め、山の恵みが私たちの日常生活に不可欠であり、からだや心の健康に欠くことのできないフィールドであることを再認識したいものです。

里山林について、元気できれいな森へと再生する活動が深まることを願っています。



▲里山ハイキングへ出発



▲途中で里山の植物の話も

記録者：宮迫

山に学ぶ、木に学ぶ

■参加人数：約40人

<プログラム状況>

山の日にちなんだお話として題材を2部に分けて進行。

一部は、瀬戸内海と言う大自然は山の恵みから成り立つ。二部は、古建築の材料の木の話・浄土寺平成の大修理に携わる若き宮大工さん二人とパネルディスカッションと質疑応答、そして先人の業・組木の不思議体験を行いました。

参加者40人程度で宮大工さんとじかに話をすることで木に対する興味を再認識。会場には海の写真と山の大型の写真パネルを展示。山を見て海を感じ、海を見て山を思う考え方を話ししました。



▲若き宮大工さんの話



▲参加者も熱心に話を聞かれました

記録者：村上宏治（村上アーカーブ代表・写真家）

海を味わうランチタイム

■参加人数：約400人

<プログラム状況>

「海を味わうランチタイム」では、北部丘陵地域や南部島しょ地域からなる尾道市に相応しい食材を味わえる昼食を用意しました。

メニューは、開催場所である御調産米を使用したおむすびと、浦崎・百島産のあさり汁です。あさり汁は浦島漁協組合長や漁協女性部・職員により早朝から昼食会場で400食を調理しました。

参加者からは「美味しい！！」とおかわりをする方も多数おり、大好評でした。また、エコトレイ容器を使用し、参加者の協力で再資源として活用しました。食を通じて、「海と里と山とのつながり」を感じていただくことができたものと思います。



▲浦島漁協の人たちが料理人です



▲浦島漁協のあさりの味噌汁と御調米のおにぎり

記録者：後藤

樹木の手入れ

■参加人数：約15人

<プログラム状況>

今回初めてひろしま「山の日」県民の集いに講師として参加しました。当日は朝から降りはじめた雨も講義を始めるころにはすっかりやんで、少し蒸し暑いながらもまあまあの天気で話を進めることが出来ました。

私の持ち時間の1時間30分で「樹木の手入れ」について現地の植栽された樹木や自然に生えた樹木を観察しながら、病害虫についての説明や管理の方法について説明しました。今回参加された人は樹木の管理に関心の高い人が多く質問も数多くありました。病気や虫の名前について、そしてその防除方法についての質問が多く、枝を切る位置や切り方については大変関心を持って聞いていただけました。今回の話が今後樹木を守っていく上で少しでも参考になればと思い、説明を終了しました。



▲樹木を観察しながら話をすすめる



▲樹木の病気や害虫の防除方法についての質問が多かった

記録者：村上幸弘（樹木医）

森のネイチャーゲーム

■参加人数：約36人

<プログラム状況>

午前中は曇っていましたが、昼食が終わる頃にはすっかり良い天気になりました。ネイチャーゲームは、昼食会場のとなりにある芝生のフィールドで実施しました。

幼児を含む低学年 20 人とその保護者および個人の参加者あわせて 36 人で、楽しく過ごす事が出来ました。

○動物交差点……生きものの生態についての興味をもつ、相互に助け合う

○カモフラージュ:人工物を探すことにより、「観察」に関心を持つ

○コウモリとガ:「食う食われる」の関係、集中力を高める

○音いくつ:聴覚を集中させて、自然の音に気づく
以上4つのアクティビティを実施しました。

晴天の中での活動だったので、木陰での説明やと水分補給の時間をもうける事で、低学年の参加者も集中力が途切れずに最後まで楽しめました。

大人の参加者も全員、最後まで子どもたちと一緒にゲームの中に入って頂けたので、スムーズに進行が出来ました。



▲小さな子供たちが参加しました



▲今日のゲームについて

記録者：神原 典政(広島県ネイチャーゲーム協会)

クラフト教室

■参加人数：43人

<プログラム状況>

自然木を使ったクラフト教室に興味を持った女性や青年男子のグループから小学生の親子連れと幅広い方達 43 人の参加があり大盛況でした。

今回「山の日」のクラフト教室では輪切り材を組み合わせて、森の動物などを作りました。木の丸みや年輪・木肌を活かした作品で形もシンプルで、多少ともノコギリを使ったことのある方は、誰でも簡単につくれます。

自然木を使ったパズルクラフトでは、サクラ、クヌギ等の里山に生えている雑木を間伐して、クラフトの材料に活用しています。今回は、太さ10センチ程の丸太を厚さ1センチに輪切りした材料を使って、一枚の丸い板に、図面の型を丸太の板に線を引き、線の形に合わせてナタで割って部材を作り、割った部材をボンドで接着して小鳥やカエル等の形に組み合わせてクラフトを作りました。



▲教わりながら工作づくり



▲お父さんと一緒に

記録者：井手原 孝範(みつぎドングリーン会)

全体

■参加人数：700人

＜プログラム状況＞

前夜の雨が早朝まで残り、企業単位で参加予定の数名の担当者から開催の有無についてお問合せをいただきました。開催する事を伝え、検討結果を待ちながら早めに会場に入りました。その間も雨は降り続きましたが、結果的にはスタッフの集合時間には雨もあがり、参加を取りやめた団体もほとんどありませんでした。

開会式では、東広島で初めて導入されたものだと思いますペレタイザー（ペレット製造機）の除幕式を行い、来賓の皆様にも幕を引いていただいた瞬間には会場にどよめきが起こりました。午後のステージプログラム「バイオマス講習」では、実際にペレタイザーを動かして約120人がバイオマスエネルギーの地産地消を目撃しました。

午前のプログラムが終わる頃には陽も射し、気持ちのよい新緑に吹き抜ける風がさわやかな会場での手入れに加え、登山教室やネイチャーゲーム、野鳥観察など山や森林でのプログラムを楽しんでいただけたものと思います。広場での様々な体験プログラムもなかなか盛況で、子ども向けにと企画された丸太切り体験やハーブ石けんづくりには大人も飛び入りするなど徐々にではありますが、楽しんでいただけた企画も増えてきたように思います

特に来賓としてご挨拶いただいたインドネシアから来日中の、ハディ教授が終始笑顔で自然に囲まれた心地よさを感じられておられたのが印象的でした。



▲開会挨拶 島 靖英 実行委員長代理兼運営委員長

この集いのアドバイザーでいらっしゃいます広島大学大学院教授・中越先生の研究室客員教授として来日中のハディ先生に、尾道会場へご出席の中越先生に代わり、研究室の留学生、大学院生と一緒に参加いただきました。来賓挨拶では、日本のきれいな緑、自然の素晴らしさについてお話されました。

また、山のグラウンドワークにも参加され、「参加できて良かった。非常に有意義な経験が出来た。」と喜んでおられました。



▲＜来賓＞ハディ・スシロ・アリフィン教授（景観生態学）
ボゴール農科大学造園学教授（インドネシア）、司会の小倉さんと共に

ペレタイザー除幕式

（セブン・イレブンみどりの基金助成金で西条・山と水の環境機構が導入）



▲4人のご来賓による除幕

記録者：船本昌義（東広島市会場 事務局長）

山のグラウンドワーク

■参加人数：287人

<プログラム状況>

多目的広場のステージ前で、安全な作業についてオリエンテーションと安全祈願セレモニーを行った後、参加15団体、人数にして287人が龍王山の中腹、憩いの森公園内の郷土の森、面積にして約3,000㎡の手入れを行いました。広島大学の景観生態学研究室(中越研)からはインドネシアから来日中のハディ教授や海外からの留学生も山の手入れに汗を流しました。前夜の雨で濡れた除伐材をチップパーシュレッダーにかけると材が詰まる恐れがあり、チップづくりはできませんでしたが、その代わり参加者全員、枯れ木や低木の除伐、下草刈りに集中されて予定時間より早く作業を終えることができました。登山道に囲まれながら反対側の道が見通せないくらい鬱蒼としていた森林に日差しが届く明るい森林に生まれ変わりました。この森林がしっかり根を張り、雨水を溜めて、ゆっくり浄化しながら川や地下水となり西条のまちに恵みをもたらしてくれるものと思います。



▲安全祈願セレモニー



▲除伐作業

●参加団体からの報告

①シャープグリーンクラブ東広島

6月3日(日)朝からの雨で開催が危ぶまれましたが、日頃の行いが良かったのか無事天気も回復し、社員、その家族、関係会社の方、合計106人が「シャープの森づくり」活動に参加致しました。

作業内容は、手ノコを使い低木や草を刈り取る除伐作業を行いました。常連参加者は、なれたもので、簡単に樹木の幹を除伐し、手際良く作業されていましたが、初めての参加者はなれない山での作業だった為、足元をふらつかせ、手ノコの扱いに悪戦苦闘しながら、除伐作業を約一時間の作業を一生懸命行い心地よい汗を流して、「シャープの森づくり」を終了致しました。

記録者:松下政司(SGC東広島)

②キャノンマーケティングジャパングループ

キャノンMJグループ社員・家族8人が参加しました。キャノンMJグループに割り当てられた作業場所は一番奥のうっそうとした場所でしたが、既にこの活動に参加して3年目となったこともあり、開始となるや手慣れた様子で「手ノコ」を操り、次々に手入れをしていく姿は、結構様になっていました。作業が終了すると、薄暗かったあたりに光が差し込むようになり、健康な森づくりと美味しいお酒づくりに少しだけお役に立てたと実感できました。

作業後は恒例の記念撮影とお弁当。作業開始時に降っていた雨はすっかりあがり、さわやかな初夏の陽気の中、全員笑顔でポーズをとり、お弁当もおいしくいただきました。

記録者:早坂修一(キャノンMJ)



●バイオマス講習(参加人数:約120人)

山のグラウンドワークの第二部として午後から「木質バイオマスと森林の整備」の講義とペレット製造機(ペレタイザー)の実演を行いました。バイオマスの講義は広島大学の佐藤先生が、地球上のエネルギー問題について、自然エネルギー普及の必然性、森林整備による温室効果ガスの削減、木質ペレットのエネルギーとしての優位性と先進地事例、再生可能エネルギーの可能性などについて、お話されました。その後、ペレット製造機を実際に稼働させペレットを生産しました。前夜の雨で材の含水率が高かったせいか、出来はあまりよくありませんでしたが、参加者はペレットを手にとり触ったり、熱心に見学されました。



▲講習会



▲ペレタイザー実演

記録者: 船本昌義(西条・山と水の環境機構事務局)

初心者のための登山教室

■参加人数: 27人

<プログラム状況>

27人の参加者を得て、(公社)日本山岳会広島支部

4人の講師で、龍王山575mを登りました。明け方の雨も開始時には止み、まずまずの登山日和となりました。少年団組と一般組の2班に分かれて、Dコースより山頂を目指し、途中休憩をとりながらゆっくりと登りました。11:20 頂上到着、全員で記念写真を撮り、しばし周囲の景色をおもいおもいに楽しんだのち山頂広場の東屋にて、ワンポイントレッスン(山登りの基本)を実施しました。

次回から登山教室を開く場合は、頂上にてゆっくり昼食をとり山の良さを語る時間を設けたいと思います。



▲山頂での集合写真

記録者: 森 茂樹(日本山岳会広島支部)

野鳥観察「森の野鳥を探そう！」

■参加人数: 62人

<プログラム状況>

「森の野鳥を探そう！」と野鳥観察会が午前と午後の2回行われました。会場での受付テントにはシジウカラの巣箱とメジロの手作りマスコットが飾り付けられ、子どもや女性来場者の目を引きました。午前の観察会は、一般参加者に加え、「みどりの少年団」12人も参加、小グループに分かれ出発。1キロ余の山道をカワラヒワなどの野鳥を観察、道すがら季節の草花やキイチゴの実を口にしたり、トカゲやヤマアカガエルを見つけたりと動植物への関心も深めました。午後も多数の参加者があり、ホオジロやヤマガラを観察、ホトギスの声を身近に聞いたり、新緑に白さが際立つヤマボウシの花の美しさに感動したり、クロモジの木の良い香りを楽しんだりしました。



▲午後の部:野鳥観察

記録者:宮田 勲(東広島の野鳥と自然に親しむ会)

森のネイチャーゲーム

■参加人数:午前12人、午後12人

<プログラム状況>

雨上がりの会場で、午前中はみどりの少年団、午後是一般の来場者の方とネイチャーゲームを楽しみました。みどりの少年団には、フィールド・ビンゴをしながら場所を移動し、キャンプ場の広場で動物ヒントリレー改良版を行いました。動物の絵をジグソーパズルのように切り分けたカードを用いて、チーム対抗リレー形式でカードを1枚ずつ観察し、断片的な情報を集めて動物を当てるといふものです。龍王山周辺で見られる生きものについて学びました。午後は動物ヒントリレーをしてからフィールド・ビンゴをしました。フィールド・ビンゴでは、途中キイチゴを皆で食べ、オトシブミの「落とし物」が多く落ちている場所を見つけて盛り上がりました。



▲フィールド・ビンゴを楽しむ

記録者:浅野智子(広島県ネイチャーゲーム協会 呉・東広島の会)

山仕事の道具屋さん&丸太切り体験

■丸太切り体験参加人数:約50人

<プログラム状況>

丸太切り体験コーナーでは、みどりの少年団の方々をはじめ、多数の親子連れで賑わいました。鋸を使うのが初めてという方が多く、悪戦苦闘しながらも力を合わせて、丸太を切って、その後紙やすりやラッカーを使ってコースターにして持って帰られました。

山の手入れ道具の販売でも、当組合がお勧めできる様々な道具に、使い方や手入れの方法等熱心に聞かれる方が多数いらっしゃいました。

これからも、多くの方々に山に関心を持ってもらえるよう、携わっていきたいと思います。



▲丸太切り体験

記録者:松浦尚樹(賀茂地方森林組合)

味わおう野草茶 つくってみようハーブ石けん!

■参加人数:延べ100人

<プログラム状況>

●石けんづくり:細かく削った石けんの素に濃いハーブエキス、はちみつ、エッセンシャルオイル(ラベンダー)を練り込む方法で化粧石けんをつくりました。子供たちも大人もとても楽しんで作業されていたように思います。充分乾燥すれば上等の化粧石けんが出来るはずです。

●味わおう野草茶:日本で昔から飲まれていた野草のおいしさに気付いて欲しいとの思いで、カラスエンドウ、スギナ等の試飲を企画してみました。学生さん達が自分の味覚と他人の味覚を比べ合いながら楽しんでいた事、「雑草と思っていたのが考えが変わった」と感想を述べておられた事、子供たち

が嗅覚、味覚をつかって感じたことを真剣にメモしていた事がとても印象的でした。また、シニアの方々も確かめつつ試飲されていたのも意外でした。大成功！！良い企画だったと思えました。



▲ハーブ石けんづくり体験



▲野草茶を味わう

記録者：高見 京(憩いの森ハーブ研究会)

ペレットストーブとペレット製造機の実演展示

<プログラム状況>

今回は、ペレットストーブの実演展示と共にペレタイザーの実演も行いました。ストーブは、今年の7月に新発売予定のMT311 SUMITAの原型とSS-1を運転しBBQグリルきりん君での焼き物コーナーも人気でした。

ペレット製造におきましては、材料の不安定なのと思うように見ていただくことが出来ませんでした。これから、皆さんでうまく使えるようにどんどん練習をしていければと思います。



▲ペレットストーブ



▲ペレットグリルヒーター

記録者：山野井重典(ヤマノイ株式会社)

西条農業高校の活動展示

<プログラム状況>

西条農業高校の7学科、部活動、地域貢献活動などの紹介をパネル展示で実施しました。



記録者：船本昌義(事務局長)

全体

■参加人数：約800人

＜プログラム状況＞

空模様は今一つだったが、6月3日のもみのき森林公園において『第11回ひろしま「山の日」県民の集い in つかいち』が開催されました。参加人数800人でした。

“森とふれあいーやってみようボランティア活動”の合言葉で展開されたこの日のプログラムは、元気がでる森づくりをしよう！、JRふれあいウォーク、森のネイチャーゲーム、作って飾ろう！草花あ・そ・び、親子でピザを楽しむ会、魚のつかみどり、森のクラフト教室と7種のプログラムで盛りだくさん。

10時に開催された開会式で櫻井実行委員長の挨拶の一節「我々は森林から多様な恩恵を日々受けている。森林は手入れすることにより良好な機能を維持できるので一人でも多くの人に山に入って山や木や動物の事を知ってもらいたい」に、参加者はうなずいていました。

行政から公式行事として初めて参加の寶来信夫広島県農林水産局長、富士原修司廿日市市農林水産課長の紹介と挨拶をいただき、「山の日」宣言は、廿日市市立吉和中学校の中田さんが力強く宣誓。締めくくりは、阿品の森サポータークラブの井上会長が作業をする上での注意点などを話し、安全祈願の「どんぐり！ころころ！」を三唱して式典は終了しました。



▲開会式の様子

元気がでる森づくり

■参加人数：55人

＜プログラム状況＞

元気がでる森づくりは、吉和小・中学校の児童・生徒や一般参加者総勢55人が、頭にヘルメットを着け、腰にノコのスタイル、まるで山仕事のいでたちで身を固め5班に分かれて伐木に挑戦しました。

参加者は、阿品の森サポータークラブの会員からノコの使い方や木の切り倒し方の指導を受け、小径木のソゴ、クロモジ、ネジキや事前に伐木してある木の枝を払いました。また、「ひろしま人と樹の会」の会員からチェーンソーで安全に大径木を伐木する模範演技を披露していただきました。

近くで大径木を切り倒すのを見るのは初めての児童生徒がほとんどで、真剣に作業の様子を見ていました。伐根直径32センチのコナラの木は、バキバキと音を立てて小枝をなぎ倒し山地にドスンと地響きを上げて倒れました。



▲伐木作業を見学



▲指導を受けながら小径木を切る

午後からは、薪づくり用として事前に1m程度に玉切りしたコナラやミズナラ、シデなどを運びだし、木材の有効活用として薪づくりを行いました。薪割機で木を割り、大きな木も簡単に割れていました。長さ33センチ、直径25センチの薪の束が22束完成しました。

作業は、15時に無事終了し、薄暗い森は見透しの良い明るい森によみがえりました。

開会式会場を取り巻くイベントブースでは、朝早くから準備してきたスタッフが商品や体験行事の材料を並べ各種の体験行事を実施しました。

この日、もみのき森林公園で行なわれた森林の多様性に関する体験活動は、次のとおりです。

親子でピザと楽しむ会



▲形を整える

作って飾ろう！草花遊び



▲さて、何ができるのだろうか

森のネイチャーゲーム



▲ゲームについて、まずは話を聞きます

魚のつかみどり



▲子どもたちに大人気です

記録者：梅田 斉(廿日市市会場実行委員会事務局)

全体

■参加人数：950人

<プログラム状況>

当日は、早朝の雨で来園者の動向やイベント内容の変更が心配されましたが、9時頃からは雨もあがり予定どおり9時30分に芝生広場において「もりメイト倶楽部 Hiroshima」の鎌田要氏による「山の日」宣言を行い1日の盛況と無事故を祈って開始しました。開催したイベントは、フォレストクラブ森守の協力を得て行なった「グリーンアドベンチャー」、広島県ネイチャーゲーム協会の協力を得た「森のネイチャーゲーム」、もりメイト倶楽部 Hiroshima 運営の「森林公園内の山の手入れ」、及び広島市森林公園主催の「スタンプラリー」の4つで、各々のイベントとも当森林公園の特質を生かしたものとなりました。また、この山の日に合わせて県道70号(広島中島線)登石バス停と森林公園経由緑化センター間の無料送迎バスを運行しました。そして、スタッフの尽力と参加者の協力を得て16時のイベント終了まで、広島市森林公園での1日を楽しく有意義に過ごしていただきました。



▲山の日宣言をする、鎌田要さん

記録者：桑田 荘一郎(広島市森林公園)

グリーンアドベンチャー

■参加人数：101人

<プログラム状況>

本コースは「管理ボランティア フォレストクラブ森守」が中心となって3年前に整備されたもので森林公園内をクイズラリー方式でトレッキングできる常設コースです。

延長2,150m、標高差150mの林間コース内に18問を設置しており、コース内は雑木林、人工林、モミジ植栽林、溪流園路、つり橋など変化に富み、当公園の人気定番イベントのひとつでもあります。

当日は28組101人の参加があり、参加者には当公園で製作された記念品と成績優秀者には賞品をプレゼントしました。また4月に半分の問題をリニューアルしたため、リピーターの方にも好評でした。



▲まずは受付(山で迷子にならないくださいね)



▲問題に見入る参加者(むつかしいなあ)

記録者：隅田 誠(広島市森林公園)

森のネイチャーゲーム

■参加人数：45人

<プログラム状況>

「コウモリとガ」は鬼ごっこの要素があるためか、コウモリ役をやりたいと言う子が多く、楽しく終えることができ、次の活動にスムーズに入ることができました。

「わらしべウォーク」は物を交換する時、その物への思い入れがあり、すぐに手放せなかったと言う感想が多く、最後まで持っていた物を今日の記念にと持って帰る人が多くみられました。

「森の美術館」は森の中に額縁をあわせ、自然の中の美しさを発見し、感動することが出来ました。また、それぞれがつけたタイトルがステキでした。

活動の後、おみやげにコマを作り、持って帰ってもらいました。今回、ネイチャーゲームを知って参加された一家族と、3人の大学生がおられたことがうれしかったです。



▲コウモリとガ（コウモリに捕まらないように逃げろ！）



▲森の美術館（最高傑作；こもれび）

記録者：森垣夫査子（広島県ネイチャーゲーム協会）

スタンプラリー

■参加人数：101人

<プログラム状況>

芝生広場周辺でスタンプラリーを実施しました。コースは、休憩所前を受付、ゴールとして、芝生広場一見晴し台ージャブジャブ川ーデイキャンプ場付近の4つのスタンプポイントを設置して、園内を楽しく散策してもらいました。参加者には3ポイント以上でスタンプラリー賞として景品を配布しました。午前中は曇り空で出足が悪かったのですが、午後は青空が広がったこともあって29組101人の方が参加されました。



▲受付に集まる子供たち



▲楽しそうにスタンプを押す家族連れ

記録者：飯田真三

森林公園内の山の手入れ

■参加人数：19人

<プログラム状況>

事前募集では申し込みがなかったので、当日の来園者に声をかけて参加者を募って興味をもった家族に順次参加していただきました。幼児連れが多く服装の準備もなく、開園前の降雨で滴が落ちてくる心配もあったので森林の奥には入らず入口付近で活動を行っていただきました。

指導者たちがていねいに説明指導させていだいたので参加者は楽しく活動されました。数組の家族はクラフトに興味を持っていて乾いた材を切って持ち帰られました。幼児が多く集中できる時間が短いので11時過ぎに活動を終了しました。参加者の感想は森林管理の大切さを実感して、「いい汗をかいた」と言っておられました。



▲家族の思い出として、良い体験になったようです



▲小さな子どもたちもがんばりました

記録者：鎌田 要(もりメイト倶楽部 Hiroshima)



全体

■参加人数：約700人

<プログラム状況>

広島県緑化センター会場では、午前10時、正本実行委員長の挨拶、地元福田町老年会(福寿会)児玉会長の祝辞の後、「可部南緑の少年団」による「山の日」宣言で開会しました。

レストハウス前広場を主会場に「さくらクイズラリー」や「ネイチャーゲーム」「森のノルディックウォーク」「紙ヒーローキとばし」「ペンダント・コースターづくり」の5つの参加型プログラムを準備、多くの親子連れなどの参加があり、それぞれ楽しんでおられました。(参加人数 188人)

また園内2箇所「山の手入れ」や植樹を行いました。(参加人数 85人)「さくらの森」周辺では一般参加者20人が「山の手入れ」、集いの広場周辺の山林では「可部南緑の少年団」20人により除伐、下草刈りなどの山の手入れが行なわれました。

集いの広場では地元福田老年会45人による八重桜の苗木の植樹をおこないました。植樹終了後、同老年会主催の「山の日」協賛グランドゴルフ大会も開催され、熱戦が繰り広げられました。当日は雨も心配された曇り空でしたが、午後からは太陽も顔を出し約600人の来園者で賑わいました。

なお、広島市森林公園会場と当会場とを連絡するシャトルバスを共同運行して両会場利用者の利便性の向上を図りました。



▲開会式の様子

記録者：行正 高成(広島県緑化センター)

森のノルディックウォーク体験

■参加人数：21人

<プログラム状況>

ノルディックウォーク協会の指導で午前、午後各一回体験会を実施しました。歩行補助杖2本を使用する歩き方、器具の持ち方の基本動作を練習した後、会場を起点に園内を巡り、自然と触れ合いながら帰ってくる約1時間の行程でした。姿勢も良くなり、健康にも良いということで、参加者は、熱心に練習されていました。



▲歩き方のトレーニング

記録者：行正 高成(広島県緑化センター)

さくらクイズラリー

■参加人数：31人

<プログラム状況>

メイン会場周辺の桜の木5本に質問ポイントを設けました。桜の花の時期は過ぎていましたが、桜茶に利用する品種や桜餅に利用する葉の品種などを答える形で出題しました。クイズに正解すれば、景品がもらえるので、子供連れの家族に人気がありました。



▲クイズの答えを書き込む

記録者：行正 高成(広島県緑化センター)

紙ヒコーキ大会

■参加人数：51人

＜プログラム状況＞

メイン会場下の芝生広場で行いました。紙ヒコーキを自分で折って飛ばし、一定の距離飛んだ人には「アイスクリーム無料引換券」をプレゼントしました。小学生以下の親子連れに人気でした。昔の子供(大人)たちも多勢挑戦。充分楽しまれた様でした。



▲風を利用して飛ばす

記録者:行正 高成(広島県緑化センター)

森のネイチャーゲーム

■参加人数：30人

＜プログラム状況＞

ネイチャーゲームのコーナーでは「へんしん へんしん だいへんしん」と銘打って、生きものたちの動きが活発になるこの時期、生きものたちの「かぶりもの」を作っにかぶり、生きものたちの気持ちを感じてみようとかぶりものに挑戦!! 最初バラバラだったが、かぶって歩いていた子を見て次々に作りにきてくれました。しかもお父さん・お母さんが小さいお子さんのためにと一生懸命に作られる姿が印象的でした。かぶりもの後ろ部分に、緑化センターの匂を感じる葉っぱを貼ってもらおうと計画していましたが時間や余裕ができませんでした。

伝承工作の「変身」や、どんぐりクッキーも用意。「かぶりもの」は材料を70用意したが20しかありませんでした。子どもより保護者の方が作ったほうが多かったということがわかりました。



記録者:住吉 和子(広島県ネイチャーゲーム協会)

八重桜の記念植樹とグランドゴルフ大会

■参加人数：46人

＜プログラム状況＞

福田老年会(福寿会)による記念植樹を「集いの広場」周辺で行いました。今年は46人の参加があり、15班に分け八重ザクラを植樹しました一俵の堆肥と土を混ぜサクラを植えつけ、鹿の害を防ぐためにミキガードをつけました。去年植えた木も一部花をつけており、サクラの花見ができるのを皆さん楽しみにしています。

植樹に引き続きグランドゴルフ大会を行いました。平素練習しているメイングランドでもあり、活気や熱気のある大会でした。昼食後、表彰式をレストハウス前会場で行いました。5位までの表彰は男性4人、女性1人で実行委員長から各々に景品が渡された。飛び賞とBB賞・ホールインワン賞・参加賞は、福田老年会の児玉会長から渡され終了しました。皆、楽しかったとのことでした。



▲八重桜の記念植樹

記録者:清水池 国雄(福田老年会)

森の手入れ

■参加人数：20人

＜プログラム状況＞

今年の「山の日」の森の手入れには、白木愛山会及び三井ボランティアネットワーク等から参加していただき「さくらの森」の除伐を行いました。白木愛山会は山登りだけでなく、白木山の登山道の整備等も行っておられるようで、木を切る事には慣れた方が多く我々がチェーンソーで切るような木も手ノコで次々倒しておられ、かなりの区域が整備されました。曇り空で湿気が多かったこともありましたが、熱心に森の手入れをしていただいたせいか参加者は汗びっしょりでした。途中休憩を取っていただき、飲物の提供後も時間いっぱい手入れしていただき、参加者全員で記念写真を撮り作業を終えました。

気持ちの良い一日を過ごしていただいたようで、来年もぜひ参加したいとのうれしい声をいただきました。



記録者：廣瀬 健(広島県緑化センター)



緑の少年団 間伐・除伐体験

■参加人数：22人

＜プログラム状況＞

今年は、可部南グリーンズ緑の少年団4・5年生はソフトボールの試合が行われていたため参加出来ず、1～3年生と父兄合わせて20人と指導者2人で間伐・除伐の体験を行いました。朝の開会式では、「山の日」宣言も行ってくれました。

1・2年生等は木が切りたいようであり、木を倒すのが楽しいようでした。切った木は下に降ろして平坦地で玉切りにして一箇所に積むと、見る見る山のようにになりました。皆よく頑張ってくれました。少し疲れたようでした。来年は他の緑の少年団にも声かけして参加者を増やしたいと思っています。



▲玉切りをする子どもたち

記録者：廣瀬 健(広島県緑化センター)

ペンダント・コースター作り

■参加人数：55人

＜プログラム状況＞

ペンダント・コースター作りでは、小径木をのこぎりで切り、切り取った木片に自由に絵を描き、持ち帰ってもらいました。子どもたちの中には、のこぎりで木を切るのに苦戦する子もいました。手軽に参加できたためか、参加人数は最多でした。

記録者：行正 将哉(広島県緑化センター)

全体

■参加人数：2,090人

＜プログラム状況＞

6月3日、薄曇りの山作業には絶好の天気になり、中央森林公園センター前広場で第11回ひろしま「山の日」県民の集いinみはらが開催されました。この日、メインのプログラムは「里山の手入れ」と「木の文化体験コーナー」です。木の文化体験コーナーでは、「チェーンソーアート実演ショー」「木工・グラフト体験コーナー」「丸太きり大会」「森のネイチャーゲーム」「子ども体験コーナー」「魔法の風呂敷体験コーナー」「森のコンサート」「協賛グループの展示即売会」「ポニーと遊ぼう」など9種類のプログラムを実施しました。

当会場の特色は地元関係者をはじめ企業各社グループや緑の少年団、東広島市社会福祉協議会147人の家族連れの参加があったこと、加えて「2012年ミスやっさ」の参加もありました。

開会式は東森副運営委員長が今日は里山との対話を十分楽しんでもらいたいとのあいさつし幕を開けました。祝辞は、三原市長五藤康之さんにいただき代読を川口三原市経済部長がされました。来賓紹介は出席いただいた広島県自然環境課長奥迫輝昭さん他2人の紹介を行いました。山の日宣言は大草小緑の少年団(3人)、羽和泉小緑の少年団(4人)の7人が声を合わせた、元気なすばらしい宣誓でした。

「里山の手入れ」には59人の参加がありました。参加者は3班に別れ、森林ボランティアの指導で作業を行いました。参加者はヘルメットを着けて、下草刈や除伐を行い、そしてそれを山から運びだし、粉碎機でチップにしました。約2時間の作業でしたが0.5ヘクタールの里山が明るい林に再生しました。

午後からは、森のコンサートや各種プログラムの行事に一般参加者が加わり、お祭の雰囲気最高に盛り上がり、多くの家族連れ(2,090人)で終日賑わいました。山や森の大切さを理解し行動する人の輪を拡げていくきっかけができた1日となりました。

●開会式



▲東森副運営委員長開会の挨拶



▲開会式の様子



▲2012年ミスやっさ三原のPR



▲緑の少年団による山の日宣言

里山の手入れ

■参加人数：59人



▲一部チェーンソーでの伐木も



▲切った木は、森から運び出しました



▲切った木は粉碎機で碎いて、堆肥にしました

チェーンソーアート実演ショー

チェーンソーアート実演コーナーではロックヒルダールの西田和弘さんに干支の龍を製作してもらいました。多くの見学者がありました。



▲チェーンソーで龍をつくる

木工・クラフト体験コーナー



▲色とりどりのクラフトを楽しむ



▲昔なつかし手作り玩具で遊ぶコーナー

丸太切り大会

親子で直径 15cmのヒノキの丸太をきる速さを争う競技に挑戦してもらいました。11 人参加。優勝者のタイムは1分30秒、とても早く切られました子供さんのタイムは約3分でした



▲親子での参加です



▲次第にコツがつかめます

森のネイチャーゲーム

目かくしイモムシ 目隠しをして3~4人でイモムシを作り、リーダーが森の中を誘導しました。足下の感覚や触れたものを手触り、太陽や風について感じていただきました。少人数でしたがじっくりと公園の自然を楽しむことが出来ました。(※午後から実施、10人参加)



▲受付をするスタッフ

記録者: 犬石 直介(広島県ネイチャーゲーム協会)

魔法の風呂敷体験コーナー

子どもさんから大人の方まで、基本の結び、一つ結びの他、簡単な風呂敷マイバック、ビン包み、帽子などご希望に合わせて体験していただきました。どんな形の物でも包めて楽しい風呂敷ワールドを楽しんでいただけたようです。



▲ミスやっさ三原も体験

記録者:安藤 志保

ソーラークッカー

野外の調理器具として人気が高まっているソーラークッカー。曇り空で十分に威力を発揮できませんでしたが、皆さん興味津々でご質問も多くいただきました。



▲興味を抱く見学者

森のコンサート

オカリナ演奏、ハワイヤンダンス、カラオケショーで、お祭を盛り上げました。



▲オカリナの演奏会

協賛グループの展示等



ポニーと遊ぼう

小さな子馬は、多くの子供たちが乗ったり、触れるなど大変好評でした。



庄原市会場 板橋さとやま学びの森

全体

■参加人数：400人

＜プログラム状況＞

庄原会場は、6月3日の本番に先立ち、前日の2日に前夜祭を開催しました。本番でコンサートばかりすることへの抵抗感もありましたので、前夜祭としてロックンロールと演歌のステージを実施しました。会場の板橋さとやま学びの森は、音響の環境が素晴らしく、演奏した人は必ず「素晴らしい。気持良かった」とおっしゃって下さいます。我々が学びの森にステージを作った目的は、長時間滞在することで、自然と山に親しむことができると考えたからです。

いよいよ、6月3日の「山の日」は、午前10時の開会宣言でスタートしました。かなり宣伝したつもりでしたが、出足は悪く、里山の手入れの講座の希望者はゼロ。炭窯の材料入れ作業は、責任者が腰を痛め見学会となりました。午後からの第二部には、地元の方々が大挙して来場され、地元小学校の一心太鼓と大人の永江太鼓の協演に酔いしれておられました。そして、山のプログラムとしての自然観察会はおよそ1時間かけて山を歩かれました。終わった時の感想は、「勉強になった」と皆さん口々におっしゃっていました。子供たちには、クラフト教室が開かれ、自分たちで木を切ってペンダントや名札を作っていました。参加者は前夜祭と合わせて約400人で、過去最高となりました。

山に入って手入れをしていただくことも重要かもしれませんが、パフォーマンスで終わっているのが現状ではないでしょうか。継続して山に入る仕組みを作る必要性を痛感しています。そうでないと、「山の日」がいつまでたっても認知されないのではないかと危惧しています。あの山に行こうと思わせるのが私たちの仕事ではないでしょうか。私が子供のころは、山で遊ぶことが当たり前な時代でした。そんな環境を作り出すのが私たちの使命かもしれません。

記録者・林 高正(板橋さとやま倶楽部)



▲地元小学生の一心太鼓と大人の永江太鼓の協演



▲クラフト教室の様子



▲コンサートを楽しむ参加者



▲森のコンサートの様子

全体

■参加人数：100人

＜プログラム状況＞

第11回ひろしま「山の日」県民の集いを6月3日(日)に、ふくやまふれ愛ランド(福山市赤坂町)にて開催しました。

福山市会場での開催も6回目を迎えたこともあり、来場者も定着し山に対する意識も次第に盛り上がりを見せています。今回のテーマである「つながり」を前面に謳い、地元を中心に呼び広く呼びかけたこともあり、当日の参加者は100人余りになりました。山や森の大切さへの理解を得て、行動する県民の輪を広げる目的は達成できたものと確信しています。

開会式では、福山市会場関係者を代表して中根寿治さんより声高らかに開会宣言をしていただきました。続いて、地元の若者を代表して大石真之さんに力強く、「山の日」宣言をしていただきました。

セレモニーの最後に全員でラジオ体操を行い、今回のメイン行事である「山のグラウンドワーク」への参加に備えました。

「山のグラウンドワーク」への参加者は70人余りとなり、福山山岳会メンバーの指導により植栽(もみじ)、里山の草刈や樹木の手入れ作業等を実施しました。参加者は程よい汗をかき充実の日になったように思います。

最後に、当日は天気やや不安を感じながらも、ひろしま「山の日」県民の集いが盛会で充実した一日で終わることが出来たことは、参加者及び運営へご協力いただいた数多くの多く関係者の力によるものであり大変感謝いたします。

記録者:赤木 茂(実行委員会事務局長)



▲開会宣言をする中根寿治さん



▲瀬大石真之さんによる「山の日」宣言



▲開会式の様子

山のグラウンドワーク

■参加人数：90人

＜プログラム状況＞

開会式終了後、グループごとに別れ、作業内容・注意点等の説明をしました。その後、会場近の山林内(D遊歩道沿い)に移動して手入れを行いました。

今年は、もみじの苗木を植栽しました。前もって、植栽場所に目印をしていたこともあり、また指導者からの指示通りにしっかりと土の踏込みもしており来年の成長が楽しみです。

天候にもまずは恵まれ、参加者との協働作業にて充実した一日でした。



▲植栽をした「D 歩道」周辺



▲ていねいに植える



▲もみじの苗木を植える

記録者：佐藤 元則(広島県東部森林組合)

●山のグラウンドワーク（里山の手入れ）へ協力

天候はやや曇り空でしたが、福山山岳会のメンバーはメイン行事である「山のグラウンドワーク」への指導の他、大変充実した1日を過ごすことができました。今年も前年同様にメンバー全員が、一般参加者への植栽、伐採他への指導を積極的に行ったこともあり盛会に終わることができました。

終了後は参加者全員で食事をしながら懇親会(反省会)を開き情報交換と日頃の苦労をお互いに労いました。

記録者：小林 征三(福山山岳会)

三次市会場 酒屋地区憩いの森

全体

■参加人数：210人

＜プログラム状況＞

ひろしま「山の日」県民の集い三次市会場は、東酒屋町の「酒屋地区憩いの森」を会場に開催しました。

午前中は、みんなで森の手入れです。子どもたちを含む約180人の参加者が、指導員のサポートを受けながら、ヒノキ・広葉樹の伐採や枝打ちを中心に作業を行いました。伐採した枝木はチップパー機で粉碎し、そのまま山に返しました。なかなか根気のいる作業でしたが、参加者の皆さんが楽しみながら生き生きと作業されていた姿が印象的でした。

手入れ作業の後は、さわやかな汗を流した爽快感のなか、地元JA女性部の皆さんに準備いただいた特製カレーライスをいただきました。食後のデザートは、地元産の梅の実を使ったゼリーです。実に美味でした！

午後からは、「森で遊ぼう」と題し、「山の日」限定の木登り体験コーナーや自然や生き物の不思議さ、おもしろさを五感で体感できるネイチャーゲーム、恒例となった大人気のカブトムシの幼虫探しなど、森遊びを親子で楽しんでいただきました。

また、しまね海洋館アクアスもブースの出展をいただき、生きたナマコやヒトデを直に触れながら、山の手入れが海の環境づくりに多に貢献していることを学ぶことができました。

今年の「山の日」も、ゆっくりと流れる時間の中で、大人も子どもも自然とふれ合うことができ、心を満腹にする1日を過ごすことができました。

記録者：山根裕史(三次市農政課)



▲(会場風景):みんなで森の手入れ！！



▲(山の手入れ作業):うまくできるかな？



▲(しまね海洋館ブース):森は海の恋人



▲(カブトムシの幼虫探し):さぁ～大量ゲットだ！



▲(ネイチャーゲーム):山は面白いよ

全体

■参加人数：138人

＜プログラム状況＞

呉市サテライト会場は例年通り、前日から会場準備を進め、万全の態勢で当日を迎えることができました。当日6月3日(日)は、あいにくの天候で小雨が降っていましたが、プログラムの時刻には雨も上がり、気持ち良く自然と触れ合うことができました。参加者は一般参加の方からバブコック日立(株)呉事業所内 BHK エコークラブ、サポート・トレッキング・グループの方々など地元色の強い参加者でプログラムを実行しました。

前年のプログラムと同様にメインである植樹には人数と時間をかけて行いました。今年も植樹の他にネイチャーゲーム、玉切りといった、日頃経験する機会の少ないプログラムを予定しましたので、参加者にとっては自然と触れ合う貴重な時間でした。植樹では前年同様に広場にて植樹、近隣周辺の草刈、芝生の植え付けなどを行なったため、参加者も手馴れたものでスムーズに公園作りを行うことができました。玉切りでは親子で協力して丸太を鋸で切り、ネイチャーゲームでは自然と一体化して隠れた動物を探し出す「カモフラージュ」、ビンゴカードに記載している自然を探してビンゴを目指す「フィールド・ビンゴ」といったゲームを行いました。

今年は前年より30分早くプログラムを実行しましたので、各プログラムとも十分に時間が取れました。そして実行委員全員があらゆる事態にも対応できるように準備をし、参加者もひとつの目標に向かってプログラムを実行しましたので予定通りに全てのプログラムを終了できました。



▲開会式の様子



▲呉実行委員長代理挨拶：大野英輔氏

記録者：実行委員会 事務局

●行事への取り組み

3年目の公園づくりに取組む

2年目の森のネイチャーゲームと檜の丸太切りに取組む

早朝より小雨、芝生の苗は来週まで延期すれば、腐ってしまうので、小雨決行を覚悟していましたが、午前9時には、雨もやみ準備したカップ 50 着も不必要となりました。2年前『山の日』に植樹したふるさと林道道路沿いは、雑草がたくさん生えて俗称「豆茶」がヒベリカム・ヒデユートをすっかり覆ってしまったところが多数あり、5月13日サポート・トレッキング・グループの14人が草取りを実施。また、公園づくりの会場の前、側溝沿いのサッキ 56 本を6月2日草刈。剪定も同グループで実施しました。

●準備から当日まで

6月2日 会場づくり

中国木材(株)、サポート・トレッキング・グループ、市役所職員で設営しました。

6月3日 ひろしま「山の日」県民の集い

- ・開会式
- ・公園づくり
- ・檜の丸太切り
- ・森のネイチャーゲーム

参加者、スタッフ共々皆様のご協力で楽しく意義ある一日を無事おえることができました。



▲公園に植樹



▲公園に芝を植える

記録者:宮岡泰久(サポート・トレッキング・グループ)

檜の丸太切り

スタッフ 4 人で運営。それぞれ丸太にまたがって玉切りを指導しました。鋸を引くのが初めてで、顔を真っ赤にして一生懸命。切った丸太に焼き印「山の日」を初めて採用。市や中国木材の方のご協力で参加者に喜んでもらうことができました。



▲玉切り

記録者:宮岡泰久(サポート・トレッキング・グループ)

森のネイチャーゲーム

■参加人数:35人

＜プログラム状況＞

ネイチャーゲームの始まる頃には、雨も上がり森の中は、気持ちの落ち着く草木の匂いが一杯で、深呼吸をすると心が洗われるような爽やかさでした。3人のスタッフで「カモフラージュ」と「フィールド・ビンゴ」の2種類ゲームを準備しました。

参加した35人の親子は、まず森の中でコース沿いに“かくれんぼ”をしている動物たちのオモチャを探して歩き、いくつ隠れているかを当てるといいうゲームを楽しみました。次は森の道を親子で歩きながら、ビンゴカードに指示されている、森の色々な表情を五感で感じとって、枠に丸をつけ、ビンゴになるのを楽しみます。どの親子も耳を澄ませたり、匂いをかいだり、目を凝らしたりして、新しい発見に歓声が広がりました。



▲森のネイチャーゲーム(カモフラージュ)



▲森のネイチャーゲーム(フィールド・ビンゴ)

記録者:渡辺秀人(広島県ネイチャーゲーム協会)

全体

■参加人数：約400人

＜プログラム状況＞

前日に雨が降り、お天気が心配された北広島町八幡高原会場ですが、当日の集合時間にはお天気が回復し、遠方からの参加者をさわやかな高原の空気が迎えてくれました。

朝8時からの作業には43人のみなさんが集まり、作業前のはじめの会を開きました。

作業において一番重要なのは安全管理です。ケガのないよう作業の内容や手順を十分に確認しました。班ごとに色分けされた番号・名札のついたゼッケンを着用し、責任者は目印の帽子をかぶります。こうすることで一目で班が分かり、声もかけやすくなります。はじめの会が終わると2カ所に分かれ、それぞれ整備を開始しました。ちょうどよい気候で、まさに作業日和となりました。

10時になるとカキツバタの里へ集合し、カキツバタ祭りと同様に山の日の開会式も行われました。カキツバタ祭りは地元にとって大切に主要な行事です。カキツバタの里づくり実行委員会のメンバーやボランティアが手入れを行なったカキツバタが見事に花を咲かせていました。青紫のカキツバタの花、澄み切った青い空を背にカキツバタ祭りが開会され、「山の日」実行委員会京才副実行委員長から山の日の開会挨拶があり、山岳連盟山田理事長が「山の日宣言」を高らかに読み上げました。続いて道田涼子さんの伴奏で「故郷ひろしまの山」を合唱しました。会場内では薪割りの体験プログラムもあり、森の恵みを興味津々に体感していました。他にも様々なプログラムが続き、会場には地域内外から多数の人が訪れました。

午後からも滞りなく作業が進み、安全に整備を終了することができました。作業に従事したみなさんの意識の高さと、リーダーが声をだし、班をまとめた結果だと思えます。継続して整備ができればという意見や、参加者同士の親睦が深まり楽しかったという意見を聞くことができました。

またカキツバタ祭りと合同で行事を開催することにより、「山に親しむ、山を楽しむ、山に学ぶ」のテーマを一般の方へひろく広報できたように思います。今後も様々な機会を通じて、山や森林、そして地元の自然の大切さを伝えていきたいと感じた「山の日」となりました。



▲「故郷ひろしまの山」の合唱



▲初夏の高原で山に親しむ

記録者：河野 弥生（八幡高原会場実行委員会事務局）

霧ヶ谷湿原～猿木峠登山道整備

■参加人数：14人

＜プログラム状況＞

霧ヶ谷湿原から猿木峠間の登山道整備は14人の参加者で行ないました。前日は8人が八幡高原センターに宿泊し、早朝からの作業に備え、団結力を高めました。高原の自然館のスタッフが作業に必要なゼッケン等を手配し、受付を行ないました。8時から高原の自然館前で山岳連盟・日本山岳会広島支部・一般参加者全員で開会式を行い、安全指導を受け作業現地へ向かいました。

下見で雪による倒木が多いのを確認していたので、チェーンソー2台と草刈り機3台で、午前中は霧ヶ谷湿原から川までを機械を使用する人と運ぶ人と2班に分かれ、分かれ、登山道を整備しました。大木が多く倒れていま

したが、チェーンソーのおかげでスムーズに作業は進みました。作業を一時中断し、10時からカキツバタの里にて「山の日」と「カキツバタ祭り」の合同開会式に参加しました。休憩や昼食の時間を兼ねて、自然の中で和やかなひとときを過ごすことができました。

午後から現地に移動し、作業を開始しました。猿木峠から腰まで伸びたクマザサを草刈り機で刈り進み、傾斜を下山しました。川からはヒノキの植林帯への登山道整備後、目印のピンクテープを付けながら鎌や鋸で登山道を整備し、14時頃に合流しました。新緑の爽やかな木漏れ日の中、心地よく汗を流し、綺麗に整備された登山道を歩く爽快な気分は、一人では味わえません。この連帯感を今後も継続したいと思います。



▲登山道整備の様子



▲道を覆う倒木を整理する

記録者：福永やす子（広島県山岳連盟普及部副部長）

霧ヶ谷湿原周辺の森の手入れ

■参加人数：29人

＜プログラム状況＞

アカショウビンの鳴き声が響き渡る芸北高原の自然館の前に、43人の参加者が集合しました。そのうち29人の参加者が霧ヶ谷湿原周辺の森の手入れを行ないました。はじめの会では「なぜ手入れが必要なのか」「どのように作業するのか」というお話を聞き、安全指導も受け、現地へ向かいました。

広島県による自然再生事業が行なわれた霧ヶ谷湿原が今回の整備場所です。湿原内の低木を伐採し、運び出す作業を行います。草刈り機は使わず、手ノコで低木を切ります。それを道路まで運び出し、軽トラに積み、集積所まで運ぶという流れです。切る人と運ぶ人がちょうどいいくらいに分かれ、どんどんと作業が進みます。低木ばかりでなくノイバラが繁茂しており、これを取り除く作業に時間と手間を取られました。草木を運ぶ軽トラ隊も何度も往復し大活躍でした。参加者同士で和気あいあいと声をかけながら、休憩時には参加者でもある植物や生物の専門家の話に耳を傾けて、楽しくもためになるひとときを過ごしました。

開会式・昼食をカキツバタの里で行い、午後から作業を再開しました。伐採が進行するにつれ、運び出す距離が長くなったにも関わらず、みなさん楽しそうに汗を流しながら、午後は2時間の作業をし、最後に笑顔満載の記念撮影をしました。お天気に恵まれ、参加者の親睦も深まり、整備も進み、ケガもなく今回の作業を終了することができました。



▲低木を伐採し運び出す



▲運搬には軽トラが役立つ



▲予定の作業を終えて

記録者: 斎 陽(日本山岳会広島支部)

カキツバタ祭り

■参加人数：約400人

＜プログラム状況＞

北広島町の「壬生の花田植」がユネスコ世界無形文化遺産に登録された直後ということもあり、同一日開催のカキツバタ祭への参加者が少ないかなと心配していましたが、相乗効果なのか、例年以上の人出でにぎわいました。ひろしま「山の日」と共催だったこともプラスに作用したようです。

四国越知町からもたくさん参加していただき、お手伝いいただきました。今年のカキツバタ祭りには二つの大きな意味が含まれていました。一つは今年が牧野富太郎博士の生誕150周年にあたることです。言うまでもなく、この祭りは牧野博士が八幡に来られてカキツバタに感激されたエピソードをもとに始まったもので、牧野博士あつてのカキツバタ祭です。節目の年に例年以上に博士の遺徳に思いを馳せました。

もう一つは138年続いた八幡小学校の最後の年となったことです。毎年この祭でオペレッタ「カキツバタの里」を全校児童で演じて楽しませてくれましたが今年が最後の演技です。感無量な面持ちとなりました。

他にも、道田涼子さんの澄み切った歌声は、大空に吸い込まれるように心地よく響きました。のびやかな声量に圧倒された安来節、篠笛の見事な演奏と続きました。薪割り実演やバザーも大変にぎわいました。多くの方のご協力で今年も盛会のうちに終了しました。また来年、さらにパワーアップして開催したいと思います。



▲見ごろを迎えた八幡のカキツバタ



▲八幡小学校の児童によるオペレッタ「カキツバタの里」

記録者: 高木 茂(カキツバタの里づくり実行委員会)

実行委員会 (全体)

■アドバイザー

森本 竹一 元・吉和村村長
 中越 信和 広島大学大学院 国際協力研究科 教授
 木下 仁 広島県農林水産局 森林保全課 課長
 奥迫 輝昭 広島県環境県民局 自然環境課 課長
 池田 博行 (公社)広島県みどり推進機構 事務局長
 岡谷 義則 中国新聞社 代表取締役社長
 青木 暢之 (株)中国放送 代表取締役社長

■実行委員長

伊藤 利彦 愛する熱帯多雨林のために再生紙で名刺を作る会 幹事

■副委員長

空谷 正樹 (株)純正食品マルシマ 代表取締役社長
 内海 康仁 光和物産(株) 代表取締役社長
 京才 昭 (一社)広島県山岳連盟 会長
 杉村 功 (公社)日本山岳会広島支部 支部長
 瀬川千代子 ひろしま緑づくりインフォメーションセンター 代表
 前垣 壽男 西条・山と水の環境機構 理事
 箕田 英紀 三次市酒屋地区自治連合会会長、エコパークの森づくり副実行委員長

福島 偉人 (株)有斐園 代表取締役
 堀川 保幸 中国木材(株) 代表取締役社長
 八谷 文策 (特非)森のバイオマス研究会 監事

■委員

赤木 茂 光和物産(株) 取締役総務部長
 秋山 浩三 広島県ネイチャーゲーム協会 事務局長
 齋 陽 (公社)日本山岳会広島支部 自然環境委員会副委員長

井上 年光 阿品の森サポータークラブ 会長
 入田謙一郎 (株)中国新聞企画サービス 課長
 上本 真稔 生協ひろしま
 宇山 茂之 (一社)広島県山岳連盟 普及部長
 奥川 利裕 三次市産業部農政課 課長
 鎌田 博 広島市森林公園
 (第一ビルサービス森林公園 園長)

近藤 紘史 (特非)西中国山地自然史研究会 代表
 櫻井 充弘 (財)もみのき森林公園協会理事長
 ひろしま人と樹の会 事務局長

佐々木良忠 広島県森林インストラクター連絡協議会
 柴田壮太郎 エコロジー研究会ひろしま
 仙田 信吾 (株)中国放送 常務取締役テレビ営業局長
 竹田 幸雄 (公財)オイスカ広島県支部 事務局長
 玉理 正博 中国木材(株) 人事・総務部 副部長
 谷村 恭佐 (財)中央森林公園協会 事務局長
 野島 信隆 (公財)法人日本山岳会広島支部自然環境委員会副委員長

野本 利夫 (特非)ゆあーず「食」未来研究所 理事長
 林 高正 (特非)板橋さとやま倶楽部 理事長
 福永やす子 (一社)広島県山岳連盟 普及部 副部長
 船本 昌義 西条・山と水の環境機構 事務局
 正本 良忠 広島県緑化センター 相談役
 宮岡 泰久 サポート・トレッキング・グループ 会長
 山田 雅昭 (一社)広島県山岳連盟 副会長兼理事長

■監事

梅田 斉 (財)もみのき森林公園協会 事務局長

■事務局(委員兼任)

総合調整 兼森 志郎 (公社)人日本山岳会広島支部 副支部長
 総合調整 畝崎 辰登 西条・山と水の環境機構

各会場実行委員会

□尾道市会場実行委員会

■実行委員長 空谷 正樹 (株)純正食品マルシマ 代表取締役社長

■副委員長 小川健太郎 尾三地方森林組合 代表理事

■事務局長 朝倉智佳史 尾道市産業部農林水産課 課長

□東広島市会場実行委員会

■実行委員長 前垣 壽男 西条・山と水の環境機構 理事

■副委員長 石井英太郎 西条・山と水の環境機構 理事

■運営委員長 島 靖英 西条・山と水の環境機構 理事

■運営副委員長 松浦尚樹 賀茂地方森林組合

■事務局長 船本昌義 西条・山と水の環境機構 事務局

□廿日市市会場実行委員会

■実行委員長 櫻井 充弘 (財)もみのき森林公園協会 理事長

■副委員長 井上 年光 阿品の森サポータークラブ 会長

■運営委員長 大西 弘 広島県森林インストラクター連絡協議会 会長

■事務局長 梅田 斉 (財)もみのき森林公園協会 事務局長

□広島市(広島市森林公園)会場実行委員会

■実行委員長 鎌田 博 広島市森林公園(第一ビルサービス森林公園 園長)

■副委員長 富士澤 隆 広島市森林公園

■運営委員長 見勢井 誠 もりメイト倶楽部 Hiroshima 会長

■運営副委員長 桑原 清二 フォレストクラブ森守会長

■事務局長 桑田 莊一郎 広島市森林公園

□広島市(広島県緑化センター)会場実行委員会

■実行委員長 正本 良忠 広島県緑化センター 相談役

■副委員長 山根 道廣 広島県グリーンサポート連絡会 会長

■運営委員長 廣瀬 健 ふれあい湧

■運営副委員長 前山 俊彦

■事務局長 久保田 純男 愛する熱帯多雨林のために再生紙で名刺を作る会

□三原市会場実行委員会

■実行委員長 福島 偉人 (株)有斐園 代表取締役

■副委員長 川口 洋海 三原市経済部 部長

■運営委員長 榊宗 正則 (特非)森のお猿さん

■運営副委員長 東森 敏彦 三原市経済部

中村 克也 三原市シルバー人材センター本郷支部長

- 事務局長
谷村 恭佐 (財)中央森林公園協会 事務局長
 - 庄原市会場実行委員会
 - 実行委員長
八谷 文策 (特非)森のバイオマス研究会 監事
 - 副委員長
林 高正 (特非)板橋さとやま倶楽部理事長
 - 事務局長
表 康信 (特非)板橋さとやま倶楽部
 - 福山市会場実行委員会
 - 実行委員長
内海 康仁 光和物産(株) 代表取締役社長
 - 副委員長
山内 充人福山山岳会 会長
 - 事務局長
赤木 茂 光和物産(株) 取締役総務部長
 - 三次市会場実行委員会
 - 実行委員長
箕田 英紀 三次市酒屋地区自治連合会会長
 - 運営委員長
貞広 和則 三次地方森林組合
 - 事務局長
奥川 利裕 三次市農政課 課長
 - 呉市会場実行委員会
 - 実行委員長
堀川 保幸 中国木材(株) 代表取締役社長
 - 副委員長
佐藤 一教 バブコック日立・エコクラブグリーン委員会理事
 - 運営委員長
宮岡 泰久 サポート・トレッキング・グループ 会長
 - 運営副委員長
金澤 宏 (広島県森林インストラクター)
 - 事務局長
玉理 正博 中国木材(株) 人事・総務部 副部長
 - 北広島町八幡高原会場実行委員会
 - 実行委員長
近藤 紘史 (特非)西中国山地自然史研究会 会長
 - 事務局長
河野 弥生 (特非)西中国山地自然史研究会
- ※以上、2012年6月3日時点での委員及び所属等を記載しております。

協力者・団体等

- 尾道市会場 (尾道ふれあいの里)
- 山の手入れ/尾三地方森林組合
- 山に学ぶ、木に学ぶ/村上アーカブ
- 海を味わうランチタイム/浦島漁協
- 樹木の手入れ/樹木医・村上幸弘
- 森のネイチャーゲーム/広島県ネイチャーゲーム協会
- 里山ハイキング/実行委員会
- クラフト教室/みつぎドングリーズ
- 写真展示/村上宏治・写真家
- 開会式・閉会式司会/山原玲子 (アナウンサー)
- 東広島市会場 (憩いの森公園)
- 山のグラウンドワーク/西条・山と水の環境機構
- 初心者のための登山教室/日本山岳会広島支部
- 森のネイチャーゲーム/広島県ネイチャーゲーム協会
- 森の野鳥を探そう!/東広島の野鳥と自然に親しむ会
- ペレットストーブとペレット製造機の実演・展示/ヤマノイ(株)
- 山の手入れ道具の展示&丸太切り体験/賀茂地方森林組合
- 味わおう!野草茶、つくってみようハーブ石けん/憩いの

- 森ハーブ研究会
 - 救護/井野口病院
 - 廿日市市会場 (もみのき森林公園)
 - 元気が出る森づくり/阿品の森サポータークラブ、広島県森林インストラクター連絡協議会、ひろしま人と樹の会
 - 親子でピザを楽しむ会/広島県森林インストラクター連絡協議会
 - 森のクラフト教室/広島県森林インストラクター連絡協議会
 - 自然観察指導員と歩くもみのき森林公園/もみのき森林公園協会
 - 森のネイチャーゲーム/広島県ネイチャーゲーム協会
 - 森の恵み一魚のつかみ取り/もみのき森林公園協会
 - 作って遊ぼう!草花あ・そ・び/もみのき森林公園協会
 - 広島市会場 (広島市森林公園)
 - グリーンアドベンチャー/広島市森林公園
 - 森のネイチャーゲーム/広島県ネイチャーゲーム協会
 - スタンプラリー/広島市森林公園
 - 森林公園内の山の手入れ/もりメイト倶楽部 Hiroshima
 - 広島市会場 (広島県緑化センター)
 - 八重桜の植樹とグランドゴルフ大会/福田福寿会
 - 間伐・除伐・森の手入れ/可部南グリーンズ緑の少年団
 - 森の手入れ/ふれあい湧
 - 紙ヒコーキ大会/ふれあい湧
 - ペンダント・コースターづくり/広島県グリーンサポート連絡会
 - 森のネイチャーゲーム/広島県ネイチャーゲーム協会
 - ノルディックウォーク/オール・オンスポーツ
 - さくらクイズラリー/広島県緑化センター
 - 三原市会場(中央森林公園)
 - 里山の手入れ/ひろしま人と樹の会、(特非)森のお猿さん、三景園友の会、帝人三原事業所、シャープ、ホンダカーズ広島、ゆあーず「食」未来研究所等
 - 木の文化体験/三原市シルバー人材センター、広島県森林インストラクター連絡協議会、広島県ネイチャーゲーム協会、瀬戸内フォレスト 21、林研グループ等
 - ポニーと遊ぼう/平田牧場
 - 庄原市会場 (板橋さとやま学びの森)
 - 森のコンサート/板橋小学校児童、永江太鼓
 - 自然観察会/板橋さとやま倶楽部
 - 森のクラフト教室/板橋さとやま倶楽部
 - 各種バザー/地元有志グループ
 - 前夜祭/広島のおやじバンド、モノトーンズと地元歌手、高山秋子
 - 福山市会場 (ふくやまふれ愛ランド)
 - 里山の手入れ/広島県東部森林組合、福山山岳会
 - 三次市会場 (酒屋地区憩いの森)
 - みんなで森の手入れ/実行委員会
 - 森で遊ぼう/実行委員会
 - 呉市会場 (グリーンヒル郷原)
 - 植樹/実行委員会
 - 公園づくり/実行委員会
 - 公園の草取り/実行委員会
 - 玉切り/実行委員会
 - 森のネイチャーゲーム/広島県ネイチャーゲーム協会
 - 北広島会場 (芸北地区)
 - カキツバタ祭/カキツバタの里づくり実行委員会
 - 登山道整備/広島県山岳連盟
 - 八幡湿原周辺の森の手入れ/広島県山岳連盟、日本山岳会広島支部、NPO 法人西中国山地自然史研究会他
- 注)以上、事務局で確認している団体等を開催いたしました。今年もたくさんの方々に協力していただき行事を行なうことができました。心より感謝申し上げます。

トピックス

活動を始めて11年目の今年、2つの表彰を受けました。皆さま方のお力添えに心より感謝申し上げますとともに、一層いい活動になる様に取り組みたいと思います。

■平成24年度全国育樹活動コンクール

「農林水産大臣賞」受賞

表彰式 2012年11月11日(日)

場所 第36回全国育樹祭式典(静岡県袋井市)

功績概要

ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会は、山々の命の輝きが最も増す6月の第一日曜日を、「山の日」とし、2002年よりひろしま「山の日」県民の集いを広島県内各地で開催している。

当初は、県内各地を巡回しながら開催していたが、各地で芽生え始めた山へ関わる動きを生かすため、県内数カ所の会場を結んでの開催を始めた。一会場からスタートし、11回目となる今年は、県内10市町11カ所が会場となった。小さな子供たちから家族づれ、高校生や大学生など、あわせて10,000人が参加する行事へと成長している。

各会場では、山の手入れをはじめ、登山教室・里山ハイキング、自然観察会、森のネイチャーゲーム、森の工作教室、コンサート等、各会場の特徴を生かしたプログラムを行っている。森林ボランティア、山岳団体関係者を中心に、産・官・学、メディアも加わった、約100人が参画する実行委員会で事業企画・運営・資金調達を行っていることも特徴のひとつである。

ひろしま「山の日」県民の集いに参加する企業、学校、グループ等が回を重ねるごとに増えるなど、広島県民の山に関わるハードルを低くする社会的な役割も果たしている。最近では、四国や大阪山の日、山の日制定協議会等のつながりもでき、連携により「山の日」運動を国内各地に広げる動きにも発展している。



■林野庁長官感謝状

表彰式 2012年3月2日

場所 農林水産省(東京都千代田区霞が関)

功績概要 国連が定めた2011年国際森林年に際し、顕著な貢献をした。



▲皆川林野庁長官より

第 11 回ひろしま「山の日」県民の集いの記録

- 発行日 平成 24 年 11 月 30 日
- 発行・編集 ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会
- 事務局 〒730-0041 広島市中区小町 2-28-703
T E L 082-909-7662 F A X 082-248-3586
e-mail:info@yamanohi.com



- 山の日ロゴ: 山と人との調和をモチーフにデザイン。デザインは木原実行さん。